

2009年IUPS国際大会の招致に向けて

庶務幹事 本郷 利憲

2001年にはニュージーランドでIUPS（国際生理科学連合）国際大会が開かれます。そこで2009年の国際大会の開催地が審議されますが、日本生理学会にはその2009年大会を招致する意思があるかどうか打診され、短い期間内に学会として態度を決めなければならなくなりました。学会では招致検討委員会を設けて検討し、「国際大会の主権にはたいへんな努力を要するが、今後8年の間に生理学の各分野で日本の研究活力をさらに高め、質の高い大会を主体的に運営することができれば、真に国際貢献を果たし、わが国の生理学の活性化を促進するメリットが大であろう。招致する方向で考える」という辺りまで議論がなされました。そして去る12月2日、招致検討委員会の検討結果を受けて常任幹事会でこの問題を審議し、様々の角度から活発に討議した結果、2009年国際大会の招致に立候補することを決めました。IUPSの会議で日本が選ばれるかどうかは未定ですが、もし選ばれば国際大会を主催することは学会にとって重大事ですので、この段階で会員の皆様にお知らせする次第です。しかし仮に招致が決まっても、開催は8年後です。常任幹事会では、この8年の間に学会の活性化に努め、IUPS大会開催の基盤を整えて、実際に大会を主催する世代に引き継いでいく方針を確認して招致

を決めました。実質ある国際大会をわが国で開くことができれば、若い研究者の刺激になるなど、日本の生理学の発展にとって多くのメリットが期待されます。

1965年、まだ日本で開催される国際会議が殆どなかった頃、日本生理学会を中心として第23回IUPS大会を東京へ招致し開催したことをご記憶の会員は少なくなりつつあります。第23回IUPS東京大会によって日本の生理学は国際化が進み、研究の急速な発展が見られました。2009年の国際大会招致を生理学会が「変革と発展」を遂げる起爆剤にしたいと考えております。そのような大会にするために会員諸氏のご協力をお願いいたします。とくに、これからの日本生理学会の運営主体となる世代の会員諸氏が、様々な角度からこの問題を討議され、日本の生理学の発展に役立つ、質の高い大会を持つためにどのように考えられるかのご意見を下さるよう要望いたします。

来る3月の京都の大会では、2009年IUPS大会招致についての説明会を下記のとおり開きますのでご出席下さい。

日 時：2001年3月29日（木）11時半～13時半
参加者に軽食を用意します。
場 所：第78回生理学会大会A会場